南校だより

令和５年１０月１７日（火）
中津川市立南小学校
No.　１９

「一生懸命」が輝いた「南校運動会」

学校長　　小木曽敏樹

新型コロナウイルスが国内で感染拡大し始めた令和２年から４年までの３年間、運動会は陸上競技場をお借りして行ってきました。ようやく学校で開催することができた今年の運動会は、競技場に比べイベント感、特別感には欠けたかもしれませんが、子どもたちの一生懸命と、頑張った笑顔、そして、仲間の頑張りを応援したたえるやさしさがいっぱいで、南校らしい素敵な運動会になったと思っています。保護者の方からも、とてもよかった、感動したなどのお言葉を伺いました。子どもたちの「一生懸命」が輝いた運動会になりました。

６年生は特に、自分たちの競技や演技だけでなく、応援や係会など、全校の中心となって過ごした忙しい１ヶ月間でしたが、やりきったという充実感があったのではないかと思います。

各学年、リレーに学年種目、そしてブロックでの演技に応援合戦、開閉会式では余分なものは省いて、午前中に全ての競技と演技を詰め込みました。学年１種目、応援なしという学校もあったようですが、南校は詰め込みました。限られた練習時間の範囲内でできる最大限を行うことで、子どもたちの成長も満足感・達成感も増すと考えるからです。

各学年競技もリレーも、最初は「ん～」と下を向きたくなるものでしたが、練習をする中でどんどん上手になっていきました。ブロックでの演技では、お父さんお母さんに見てもらいたいという強い思いがあったのでしょう、練習ですらじっと見入ってしまうほどでした。６年生が５年生に教え、全体練習も仕切っていくという、毎年見られる光景に加え、今年で言えば、１・２年生の合同練習で２年生のリーダーが練習の進行をして、前に立って手本を見せるなど、上級学年がリーダーシップをとるという場面が多く見られました。こういう下の子をリードしていくという取組を通して、いろいろなことを学んでいくのだと思います。

半年前に入学したばかりの１年生は、６年生の指導に従い応援練習をして、170 人という大きな集団の中の１人の団員として、その責任を果たしていました。つくづく子どもの成長ってすごいな、学校ってすごいなと思った運動会でした。

「伝える」ことから見えた成長

運動会開会式での選手宣誓、開会式閉会式での児童会代表の話、解団式での両団団長の話、そして、前期終業式での児童代表１年生と６年生の話。ここ数日間で、児童の代表が全校の前で話す機会が多くありました。

子どもたちが何かを話す時、「～なので、良かったです。」という話し方をします。何でも最後に「良かった」を付けて終わらせる話し方に、私自身は不満を抱いていました。しかし今回、この「良かったです。」は一度も聞きませんでした。担任や担当教員の指導はいくらかあったのだろうとは思いますが、思いや願い、困難や苦労、喜びや感動、そして、課題や次への目標など、しっかりと自分の思いや考えを語っていました。「良かったです」で終わらせるのではなく、自分の思いをしっかり言葉に乗せていました。思いがしっかりと伝わってくる話は、聞く側の子どもたちの聞く態度をも変えます。子どもたちの成長を感じます。これを南校のスタンダードにしていきたい。小さい子たちには難しいかもしれないけれど、４年生以上には・・・。

後期がスタート

運動会で前期を締めくくり、翌１３日に前期終業式、１６日に後期始業式を行いました。

「運動会は、楽しいから頑張ったのですか？　頑張ったから楽しかったのですか？」と、始業式に子どもたちに聞きました。子どもたちは、「頑張ったから楽しかった」と答えてくれました。勉強も、掃除も、歌も、行事も、頑張ってみることで楽しくなる。後期は、頑張ることで楽しいがいっぱいになる、そんな後期の生活にしようと話しました。生徒指導からは、誰でも使える「魔法の言葉」・・・おはよう、こんにちは、ありがとう・・・こんな言葉をちゃんと使って、全校がもっとつながり合える後期にしようと話をしました。